

令和 3 年 6 月 14 日現在

機関番号：32689

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K18162

研究課題名（和文）太閤記物関連演劇作品についての基礎的調査研究

研究課題名（英文）The basic research on Taikoki-mono related theatrical works

研究代表者

原田 真澄（Masumi, Harada）

早稲田大学・坪内博士記念演劇博物館・助教

研究者番号：40580444

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究課題は想定以上の進展をみせた。太閤記物の主要な人形浄瑠璃と歌舞伎の作品が調査がほぼ完了して、近世演劇全体の太閤記物が見通せるようになった。各作品研究についても着実に成果を挙げるのみならず、テキストだけでなく図像的な観点からの研究も端緒についており、申請者の研究が一層進展していくことが期待される。

さらに最終年度である2020年には、女流義太夫三味線演者の協力を得て、伝承の途切れた太閤記物である「大功艶書合」園菊砦の段を、節章が書かれた資料を利用して部分的に復曲した。文字だけでは分からない登場人物の造形が鮮やかに浮かび上がってきたのである。曲全体の復曲にむけたさらなる研究が俟たれる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究課題による研究成果によって、人形浄瑠璃および歌舞伎太閤記物関連演劇作品について網羅的な調査研究がほぼ終了した。これに伴い、18世紀以後の人形浄瑠璃と歌舞伎界の相互関係のある程度明らかにし、さらに近世演劇史全体のなかでの太閤記物の位置づけとそれらが現在に及ぼしている影響を解明することができた。

また、織田信長をはじめとする何人かの戦国時代の武将達が、人形浄瑠璃や歌舞伎などの演劇においてどの様に表現されているのかを確認し、近世から現代までつづく武将らの評価・人物造形がどの様に成立してきたのかを明らかにした。これは、演劇研究のみならず、文学・歴史学の研究の進展に資するものである。

研究成果の概要（英文）：This research project progressed beyond expectations. The investigation of the main works of Ningyo Joruri and Kabuki in Taikoki-mono genre has been almost completed. As a result, it became possible to understand the Taikoki-mono of Ningyo Joruri and Kabuki. Not only has the research of each work steadily achieved results, but also research from a pictorial point of view as well as texts has begun, and it is expected that the research of the applicant will further progress.

Furthermore, in 2020, the final year of this research project, with the cooperation of the female Gidayu shamisen performer, we succeed to reproduction of the shamisen part of the "Sonogiku Toride no dan" of the "Taiko Enryo Awase", which was a forgotten Taikoki-mono Ningyo Joruri. For that succeed, we could know the modeling of the characters, which cannot be understood from the texts alone. Further research is required for the reproduction of the entire work of "Sonogiku Toride no dan".

研究分野：人形浄瑠璃文楽

キーワード：人形浄瑠璃 文楽 太閤記物 歌舞伎 近世演劇 古典芸能 近世文学 劇文学

1. 研究開始当初の背景

申請者は、これまで学術振興会特別研究員 (PD) に採択された研究課題「人形浄瑠璃文楽における太閤記物作品の総合的調査・研究 - 18世紀以降を中心に - 」において、18世紀以降の人形浄瑠璃文楽における太閤記物の基礎的な調査と研究をおこなった。当該研究課題においては、人形浄瑠璃史における太閤記物の位置づけを明らかにすることに成功し、その成果は博士論文「人形浄瑠璃における太閤記物作品群の研究」してとりまとめ、本博士論文は審査の結果受理されている。申請者以前に人形浄瑠璃の太閤記物作品群を体系的に研究して、人形浄瑠璃史における重要性を指摘した研究者はなく、作品リストすら存在していない状態であった。しかし、申請者の研究が進むにつれ、太閤記物作品群に登場する歴史上の人物の人物造形が、現在の我々が持つ、或いは知る歴史上の人物の人物造形に大いに影響を与えていることを発見した。演劇研究には止まらないこの指摘を論文化したのが、原田真澄著「秀吉の出世 (虚像編)」(堀新・井上泰至編『秀吉の虚像と実像』(笠間書院)所収)である。太閤記物作品の研究は、演劇研究の枠を越え、歴史研究にも資することを明らかにしえた。このため、申請者は、人形浄瑠璃だけでなく、歌舞伎をも視野に入れた網羅的な近世演劇全体の太閤記物作品研究を目指すものである。

また、これまでの申請者の研究では、太閤豊臣秀吉死後を描く作品群、つまりは関ヶ原の戦いを描く「関ヶ原物」、大坂冬の陣・夏の陣を描く「大坂軍記物」にまで研究の手が及ばない憾みがあった。「関ヶ原物」や「大坂軍記物」は、登場人物などにおいて太閤記物と重なる部分が多く、太閤記物研究が未熟なうちには手を付けがたい状況であったが、申請者によって人形浄瑠璃における太閤記物研究の基礎が開かれた現在では、「関ヶ原物」や「大坂軍記物」の研究を推進することが可能である。これら「関ヶ原物」や「大坂軍記物」は、徳川政権への批判にもつながるため、近世期に演劇として上演するのは大変危険な題材であった。しかし、この「関ヶ原物」「大坂軍記物」にこそ近世の庶民の豊臣政権や石田三成、対する徳川家康などへの率直な感情が表れている。そのため、「関ヶ原物」「大坂軍記物」の研

究を進めることで、近世の歴史意識と、封建体制化における徳川政権への批判意識を明らかにすることができるのである。申請者は、これら「関ヶ原物」「大坂軍記物」の作品をも「太閤記物関連作品」と捉えて、必要に応じて研究を進めることで、より広い視野のもとで「太閤記物関連演劇」の基礎的な調査研究を行うものとする。

2．研究の目的

本研究課題の目的は、人形浄瑠璃および歌舞伎太閤記物関連演劇作品について網羅的な調査研究を行い、18世紀以後の人形浄瑠璃と歌舞伎界の相互関係を明らかにし、さらに近世演劇史全体のなかでの太閤記物の位置づけとそれらが現在に及ぼしている影響を解明することである。また、豊臣秀吉・織田信長をはじめとする戦国時代の武将達が、人形浄瑠璃や歌舞伎などの演劇においてどの様に表現されているのかを確認し、近世から現代までつづく武将らの評価・人物造形がどの様に成立してきたのかを明らかにする。同時に、近世の人々による歴史観が現在の我々に及ぼしている影響をも解明し、演劇研究のみならず、文学・歴史学の研究の進展に資することを目的としていた。

3．研究の方法

研究計画・方法としては、資料調査が主となる。歌舞伎の太閤記物作品調査、および近世演劇（人形浄瑠璃・歌舞伎）の「太閤記物関連作品」調査を行いつつ、形浄瑠璃と歌舞伎間の影響関係の考察に止まらない多角的な視点からの分野横断的作品研究を順次遂行した。近世演劇の研究にとっては、第一に資料の整備が研究の要である。その上で、作品テキストの読み込みを行い、個別の作品研究を行った。また、テキストだけではなく、画像的な面からも研究を行った。

4．研究成果

本研究課題は想定以上の進展をみせた。太閤記物の主要な人形浄瑠璃と歌舞伎の作品が調

査がほぼ完了して、近世演劇全体の太閤記物が見通せるようになった。各作品研究についても着実に成果を挙げるのみならず、テキストだけでなく図像的な観点からの研究も端緒についており、申請者の研究が一層進展していくことが期待される。

さらに最終年度である 2020 年には、女流義太夫三味線演者の協力を得て、伝承の途切れた太閤記物である「大功艶書合」園菊砦の段を、節章が書かれた資料を利用して部分的に復曲した。文字だけでは分からない登場人物の造形が鮮やかに浮かび上がってきたのである。曲全体の復曲にむけたさらなる研究が俟たれる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Masumi Harada	4. 巻 51
2. 論文標題 Regional Love and Hate: Working around Censorship in Mid-Edo Period Ningyo Joruri	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The Journal of The Oriental Society of Australia	6. 最初と最後の頁 129-141
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 原田真澄	4. 巻 26
2. 論文標題 シンポジウム「平家物語の『世界』と近世演劇 - 人形浄瑠璃を中心に - 」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 楽劇学会	6. 最初と最後の頁 67 - 79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 原田真澄	4. 巻 212
2. 論文標題 小西行長 - 近世の軍記から演劇まで -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 アジア遊学	6. 最初と最後の頁 51-65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 1件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Masumi Harada
2. 発表標題 The “Three Kingdoms” in Japanese Early Modern Puppet Theatre: Looking at “Three Kingdoms in This Country”
3. 学会等名 Asian Studies Conference Japan (ASCJ) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 原田真澄
2. 発表標題 本能寺の変に関する演劇・映像作品小考
3. 学会等名 楽劇学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊海孝充・原田真澄・野川美穂子
2. 発表標題 楽劇と平家物語
3. 学会等名 楽劇学会（招待講演）
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 堀 新、井上 泰至	4. 発行年 2020年
2. 出版社 文学通信	5. 総ページ数 397
3. 書名 信長徹底解説	

1. 著者名 原田真澄翻刻、義太夫節正本刊行会編、鳥越文蔵・内山美樹子監修	4. 発行年 2018年
2. 出版社 玉川大学出版部	5. 総ページ数 177
3. 書名 義太夫節浄瑠璃未翻刻作品集（第五期）物ぐさ太郎	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------